

令和4年度 天栄村立湯本中学校 学校運営・経営ビジョン



教育目標

- <知> 確かな学力をそなえた生徒
- <徳> 心豊かでたくましい生徒
- <体> 身も心も健康な生徒

本校は諸先輩や地域の方々が築いた昭和22年創立の伝統ある学校です。全校生徒が生き生きと輝いて活動する学校を目指し、生徒・保護者・地域との強い絆の下、教育活動に取り組んでいます。小規模校・少人数指導の特性と強みを生かし、本校ならではの特色ある教育活動・ふるさと教育を展開し、故郷を愛し、郷土や自分に誇りと自信がもてる生徒を育てていきます。

個性輝き、共に学び合う湯本中生 重点目標 ～知・徳・体のバランスのとれた生徒～

- <知> ○主体的・対話的に学ぶ姿勢
○学ぶ楽しさの育成
○最後まであきらめない心の育成

- <徳> ○思いやりのある心の育成
○ふるさとを愛する心の育成

- <体> ○健康・安全への望ましい態度の育成と体力向上
○健康への自律と習慣化

次のことを重点に実践します

○ 学習意欲の向上と主体的な学びの育成

- ・生徒が自ら課題を見だし見通しを立てて取り組み、他からの情報をもとに自分の考えを深め、最後まであきらめずにやり遂げようとする授業を設計します。
- ・ふくしまの「授業スタンダード」を活用した互見授業や授業研究など校内研修を充実させます。
- ・「学び」の個別最適化と協働のバランスを図った指導を工夫します。

○ 学びの習慣化

- ・授業と家庭学習の関連付けを強化し、学びの習慣化を図ります。(F・T・学舎・教科担任のノートチェック)
- ・ICTを有効に活用し、どんな状況でも「学びを止めない」工夫をします。

○ 読書活動やICT教育等の充実

- ・読書が生活の一部となるような環境を整え、読書意欲の向上に努めます。
- ・様々な場面でICT教育を推進し、生徒のデジタルリテラシーと情報モラルの向上に努めます。
- ・掲示教育の充実により、生徒が学びのあしあとを実感できるようにします。

○ 道徳教育・人権教育の充実

- ・教育活動全体で道徳教育・人権教育を推進し、他者を共感的に理解する心を育てます。(感染症に関わる差別・偏見の未然防止、豊かな情操、社会性の育成)
- ・教員参加やローテーション道徳による道徳の授業実践により、多面的・多角的な考えに触れることができるように工夫します。
- ・ボランティア活動や豊富な体験活動を通して、奉仕の精神や自己肯定感・自己有用感などを育みます。

○ キャリア教育の充実

- ・アントレプレナーシップ(起業家精神)教育を通して、地域素材を掘り起こし、ふるさとを大切に教育を推進します。
- ・職場体験等を通して、将来の夢・目標を考えさせ、今後の進路指導に役立ちます。

○ 生徒会活動の充実

- ・生徒一人一人が生き生きと活躍できる実効性のある生徒会活動を進めます。

○ 健康教育の充実

- ・学校の新しい生活様式を踏まえた新型コロナ感染症への対応を行います。具体的には、全校生徒及び全職員で「たいお・う・し・て・マス・か」運動を徹底します。(日常の健康観察・ポスター掲示・教育課程の柔軟な扱い)
- ・計画的・随時の教育相談を通して、生徒の心の健康保持に努めます。

○ 体育・部活動の充実

- ・福島大学教職大学院・会津短期大学と連携した個別最適化の体作りプログラム運動の実践を推進し、生徒の体力向上を図ります。
- ・部活動では、体力増進とともに、あいさつなどを大切にします。教員の働き方改革との調和を図り効率よく活動します。
- ・地域の施設を活用しながら、ゴルフやスキーに取り組みさせます。

○ 食育の充実

- ・野菜栽培活動、地元農産物を使った調理実習等を通して食育の充実を図り、身近な事柄を通したSDGsへの理解を深めさせます。

○ 安全教育の推進

- ・校舎内外の点検、及び即時修繕を行い安全に期します。
- ・安全教育を通して、登下校時の安全と、安全な日常生活の徹底を図ります。

めざす湯本中の生徒像

<知>

- ◇ 基礎的・基本的な知識及び技能が定着し、これからの社会を生き抜くための視点(見方・考え方)を身につけた生徒
- ◇ 自ら課題を見だし、見通しをたてて課題に取り組むことができる生徒
- ◇ 他からの情報にもとに、自分の考えを深めることができる生徒

<徳>

- ◇ 社会や地域の一員としてのつながりを大切にし、相手の立場で物事を考えられる思いやりと温もりのある生徒
- ◇ 日常における困難に直面しても、あきらめずに最後までやり遂げようとする生徒
- ◇ 将来の夢・目標に向かってひたむきに努力し続けられる生徒

<体>

- ◇ 基本的な生活習慣を身に付け、健康や食事を自己管理できる生徒
- ◇ 自ら体力・運動技能の向上を図るとともに、生涯を通じて運動やスポーツを楽しもうとする生徒

《村教育委員会グランドデザインから》

- コミュニティスクール、愛村心を育むふるさと教育、英語の村てんえい、つなぐ教育(幼小中連携)の4本柱
- 地域学校協働活動による地域の人材活用
- 地域の「ひと・もの・こと」に繰り返し関わる主体的・体験的な学習
- 小中英語パートナーシップ事業の推進
- 村内全教員による授業参観と研究
- 幼小中連携による英語力の向上
- ALTとのTTによる英語教育の充実・推進
- 学校園間の教職員・児童生徒の交流
- 一人ひとりの実態に寄り添った教職員のあたたかな関わり
- 「聞くこと・表現すること」を大切に教育活動の推進
- 少人数の強みを生かした授業作りの推進
- 体力と運動習慣の調査結果等を基にした運動会場の意図的設定

<地域と学校の絆> ～ 共に歩む地域・学校を支える基盤 ～

○ 学校、地域との連携

- ・湯本小・幼や天栄中学校等との連携を深めるとともに、オンラインなどによる同世代間の交流を促進し、授業や行事などにおいて多様な考えに触れる機会を設けます。
- ・地区文化祭、地区運動会等に積極的に参加します。地域行事の意義等を学び、未来への展望を持つ機会を設けます。
- ・地域の運動施設(ゴルフ場・スキー場等)を活用します。

○ 地域の歴史と文化、教育力の浸透

- ・地域の方々から学ぶ活動や地域での体験活動を充実し、ふるさと教育を充実させます。
- ・地域や学校伝統の継承に係る教育活動を充実させ、地域の行事等で披露する機会を持ちます。
- ・地域の方々との触れ合い活動を取り入れて、地域の一員としての自覚を深めます。

○ 積極的な情報発信と共有

- ・学校や生徒のよさが見えるHP、学校だよりを発信します。
- ・保護者会や行事等を通して、家庭・地域から情報を受け止める態勢をつくります。
- ・地域の各種会議(オンライン含)等を活用して、地域の方々からの意見・要望等を受信し学校経営に生かします。

